

最優秀賞

大谷 直己
大谷 晶子
株式会社 PARA-DESIGNLAB
SARO 一級建築士事務所
【作品名】RIDGE

設 計 SARO 一級建築士事務所
施 工 大和建設株式会社
竣 工 日 2018年8月1日

◎建物概要

建 設 地 岡山県 延床面積 326.52m²
敷 地 面 積 548.18m² 構造・規 模 RC造2階建

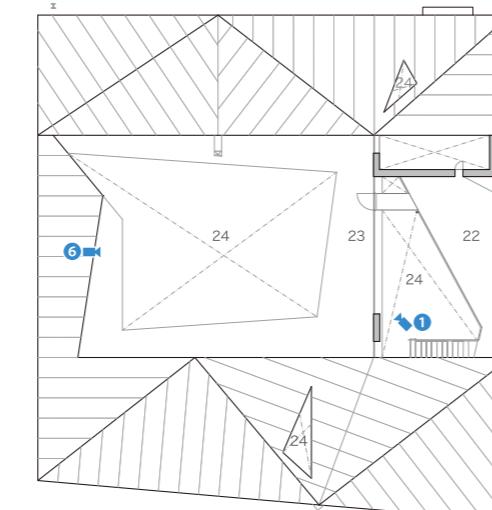
◎設備面の特記

厨 房 機 器	ガスコンロ
給 湯 機 器	エコジョーズ
冷暖房機器	エアコン 床暖房(電気ヒーター式)

1F

2F

平面図



1.ENT 2.GST 3.JPR 4.LDK 5.WKS 6.MBR1 7.MBR2 8.CBR1 9.CBR2 10.CBR3
11.DEN 12.WCL 13.UTL 14.BTH 15.SCL 16.STR 17.GRG 18.APR 19.TER 20.GRD
21.VTG 22.LFT 23.RGRD 24.VOID

断面図



設計コンセプト

建物は岡山県東南部の地方都市に建つ5人家族の専用住宅として計画された。敷地は市中心部の市役所近くに位置し、その西側正面には街のシンボルである彫刻家を記念する公園・美術館がある。

また、四方を山に囲まれた典型的な盆地形状の地形の中にあり、山から吹き降ろす西風及び北風が年間を通じて吹くという特性を持つ場所であった。施主からは周辺環境との調和、セキュリティー・プライバシーの十分な確保、家族5人のための必要諸室と充分な収納、将来の2世帯住宅対応等が与件とされた。なかでも、生活スタイルとして、地面(地べた)に近く庭と屋根のある暮らしが、最優先された。以上の与件から様々な可能性の検討を行い3つの中庭と1つの大きな折れ屋根を持つコートハウスの形式を採用する事となった。性格の

異なる3つの中庭は各諸室への通風、採光、眺望に寄与する事を意図している。一方で連続する大きな折れ屋根は、豊かな内部空間の確保や増築が可能な気積を確保しながら、隣接家屋への通風、採光、空・山への眺望も最大限確保できるよう、最適な形態を求めた。

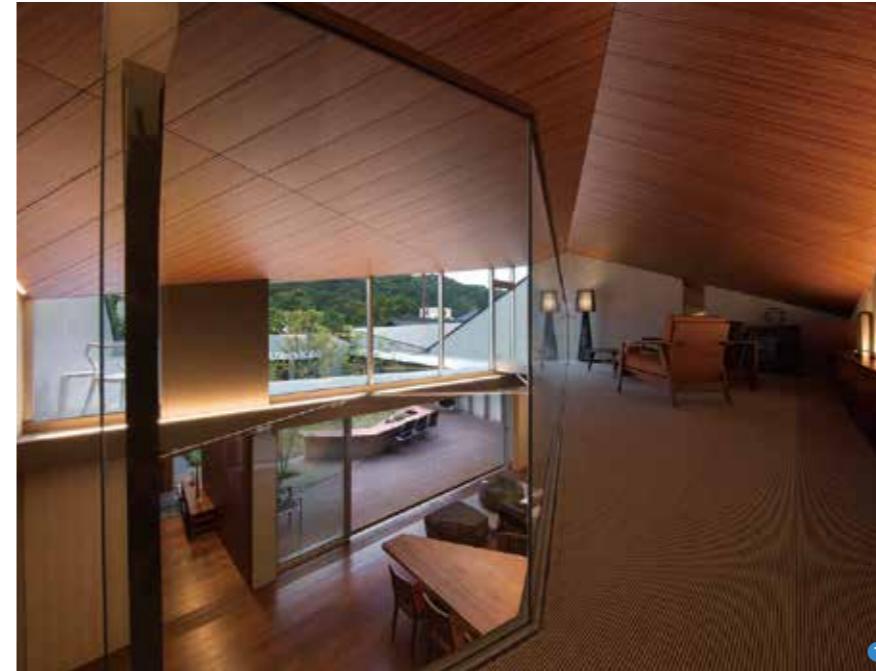
施主との徹底的な議論の中で、中庭のある「安全で快適な外部空間のある暮らし」、「庭とつながる様々な居場所のある暮らし」、「周辺の山並み・公園の緑とつながる豊かな暮らし」が具体的目標として定められ、多世代居住が可能な永く住み継がれる住まいの実現を図った。敷地内の庭とそれに重なる公園・周辺の山並みや、周辺から見た折れ屋根と山並みの重なりなどが、施主と地域に暮らす人にとって、新しいけれどどこか見なれた風景となる事を企図している。

審査委員講評

大きな折れ屋根のプロポーションやディテールが美しく、これが敷地周辺に連なる山並みとも関連付けられた形状であり、説得力を感じます。内側には中央の大きな庭を含め、3箇所に中庭が設けられ、実に明るく、機能的な諸室の配置となっています。内外の緑と一体となった伸びやかで美しい住宅です。全てにゆとりを感じる嬉しい住まいが完成しています。



写真撮影 / KOUJI OKAMOTO



❶2階ロフトから中庭を望む。
❷❸❹全照明LED化、センサーによる照明・換気の自動制御、高効率ガス給湯システム、電気熱源の省エネ対応空調機、床暖房の採用など、場所ごとに最適な方式を組み合わせ、省エネルギー、CO2削減を図った。また、盆地特有の山並みから吹く西風を活かし、3つの中庭を介して全室に自然通風・自然採光を可能にした。



写真撮影 / KOUJI OKAMOTO ❶～❸ SARO ❹

❷❸❹折れ屋根と山並み・公園の緑の重なり。中庭と折れ屋根を望む。

最優秀賞

穂垣 友康・貴子

くらし設計室

【作品名】
続・三原の家

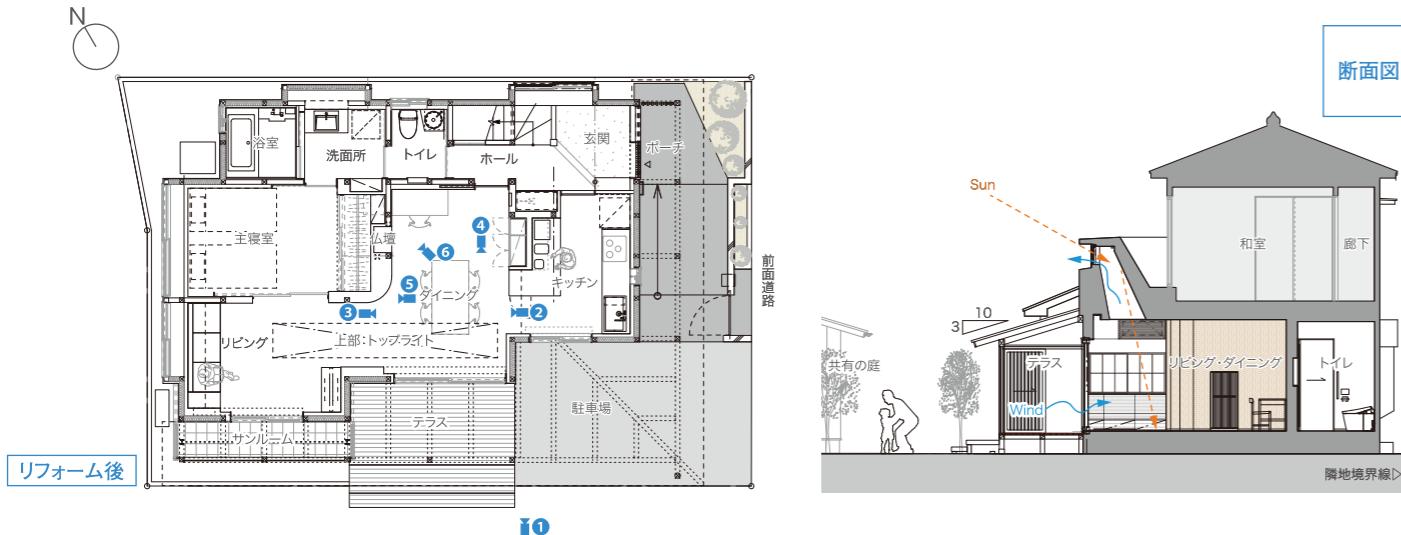
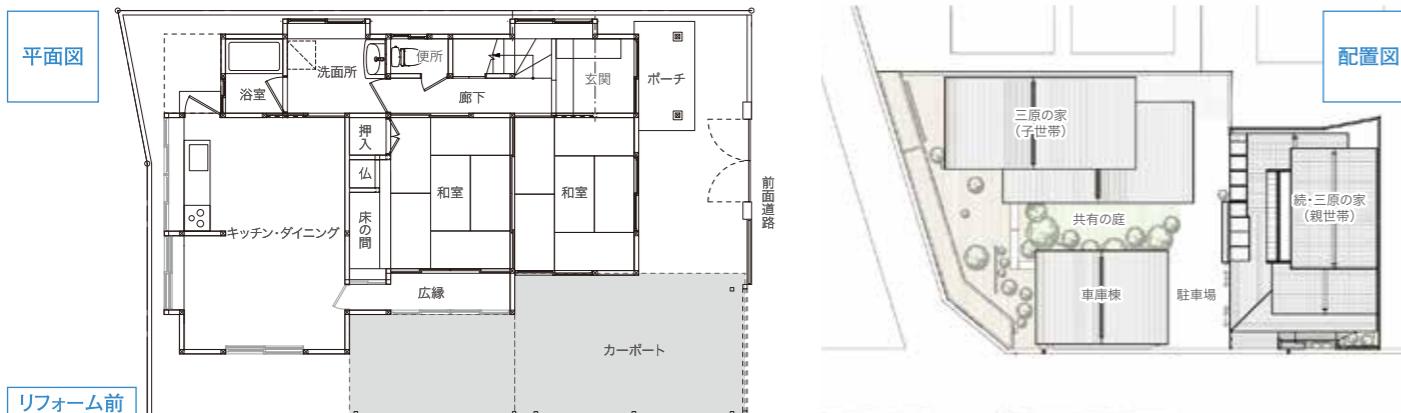
設 計
くらし設計室
施 工
隅田木造建築店
竣 工 日
2018年12月14日

◎建物概要

建 設 地 広島県三原市 延床面積 104.88m²
敷 地 面 積 133.25m² 構造・規 模 木造2階建

◎設備面の特記

厨 房 機 器	IHクッキングヒーター
給 湯 機 器	エコキュート
冷暖房機器	エアコン 床暖房(ヒートポンプ式)



設計コンセプト

築30年木造2階建ての住宅をリノベーションした「続・三原の家」。子世帯が隣の敷地に住むことを機に、この場所での新たな住まいの形を考えた。

子世帯とのつながりをつくり、60代を迎えたご夫婦がこれから的生活を豊かに暮らすことができる終の住処として、L型の縁側空間を増築する計画とした。

縁側空間には、玄関ポーチ・アプローチ・駐車場・テラス・サンルームの機能を持たせ、内部(ご夫婦)と外部(子世帯・地域)をつなぐ中間領域としての役割を持たせている。ダイニングから延長してテラスを設置することで、プライバシーを確保しながら子世帯と緩やかにつながることができる。

既存の住まいでは、使いづらい動線計画(キッチン・ダイニングには洗面所を通って入る)、一部屋で完結する広がりの無さが

問題であった。

そこで、既存建物の形を活かし、南側にキッチン・ダイニング・リビングを設け、3つの部屋が雁行してつながっていく広がりのある空間とした。1階のみで生活ができるようにリビングの隣に寝室を設け、水廻り空間と直接つながり、トイレはホールからも使えるように入口を2つ設けることで、家全体が行き止まりのない動線計画となっている。

この場所で育っていく子どもたちが共有の庭で遊び、親世帯のテラスから祖父母の家へと入っていく…

三世代が寄り添って暮らす形は、景色の移りわりと共にその先の世代とも繋がっていく嬉しい住まいとなる。

審査委員講評

内部、外部それぞれに向けて、明確な方針をもってリフォームされた住まいです。

内部はLDK、寝室、水廻りを廻遊できる動線でつなぎ、のびのびと暮らせる空間となっています。外部に向けては軒の出の深い縁側空間を設け、子世帯や地域に向けて緩やかにつながる構成となっています。子世帯、車庫との三棟で落ち着いた街並みが形成されつつあります。



④⑤内部は、施主の気持ちが落ち着く色である「サクラ色」が感じられる空間となるように素材を選定した。壁は湿度を調整する大理石や石灰を主成分とした左官材を塗き落とし仕上げとし、アクセントウォールとしてダイニングからリビングへの流れをつくるR壁を「サクラ色」としている。

⑥オリジナルで製作した机・椅子とお仏壇収納は、扉が蛇腹式で側板に納まるようになっている。

優秀賞

小松 隼人

株式会社 小松隼人建築設計事務所

【作品名】瀬戸見の家

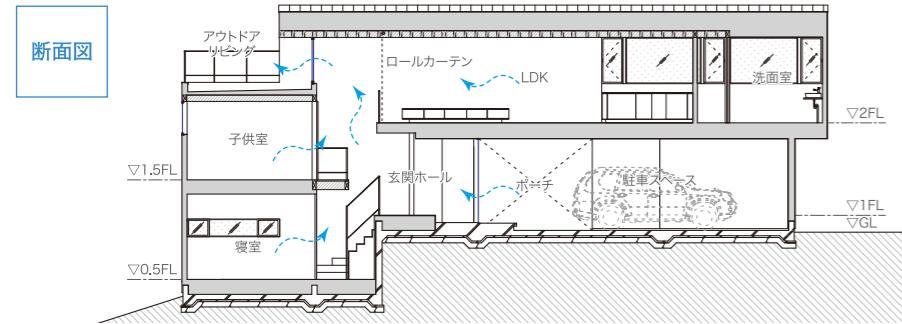
設 計 株式会社 小松隼人建築設計事務所
 施 工 株式会社マリモハウス
 竣 工 日 2018年3月22日

◎建物概要

建 設 地 広島県呉市 延床面積 130.53m²
 敷 地 面 積 411.04m² 構造・規 模 木造2階建

◎設備面の特記

厨 房 機 器	IHクッキングヒーター
給 湯 機 器	エコキュート
冷暖房機器	エアコン



設計コンセプト

広島県呉市内から西の方角、魚見山の山間に広がる住宅地。このエリアから少し離れた敷地に建つ住宅。敷地からは、防風林を越え瀬戸内海の美しい景色を望むことができる。この恵まれた環境を享受した暮らしを実現したい一方で、敷地のほとんどが崖とも言える断面形状のため、残されたわずかな緩勾配のエリアに計画する必要があった。

地盤の掘削量を最小限にするため、緩勾配エリアの形状と高低差に合わせて建物を配置したところ、1階の玄関を基準に半階下がって0.5階を寝室、半階上がって1.5階が子ども室、さらに半階上がって2階が景色の最もよく見えるLDKおよび水廻りという、スキップフロアの構成が導き出された。

敷地の高低差によって生まれた空間は、開口部の配置と大きさを操作することにより「リビングから一望できる呉市内

の景色」、「キッチンに立つと視界に入ってくる美しい夕景」、「子ども室から見える樹木越しの景色」といった、日々の生活シーンに多様な風景を取り込むことができる。

リビングからさらに半階上がった2.5階のバルコニーは、瀬戸内海の景色をパノラマ状に一望することができ、夏季に開催される海上花火大会も楽しめる。敷地形状から導かれた空間によって周辺環境の豊かさを享受するだけではなく、地形に逆らわない建ち方が自然の移ろいと共にこの地へ溶け込んでいくことを願っている。

審査委員講評

アウトドアリビングで家族や友人と夏の花火を楽しむ、まさに「瀬戸見の家」ですね。敷地のほとんどが崖という厳しい立地条件に抗うことなく、高低差を利用した綿密な設計が施されています。くの字形の建物の開口部の大きさは方角によってメリハリを付けています。それらがもたらす様々な瀬戸内の景色は、この家に暮らす家族に日々新たな発見をもたらすことでしょう。



- ①キッチンから美しい夕景を望む。
 ②③敷地周辺が開かれた環境であり、今後も建物などは建築されないことから西側外壁の開口量を最小限に抑えて西からの強い直射光を調整した。同時に、東面と南面に大きな開口をつくるための耐力壁としても機能している。



- ④2.5階のアウトドアリビングは、瀬戸内の景色をパノラマ状に一望。
 ⑤各居室の窓から取り込んだ風は、吹抜けを介してアウトドアリビングの高窓から抜けていくという重力換気を計画。

リフォーム住宅部門 優秀賞

小川 未沙紀
上田 健二
株式会社 安藤嘉助商店
【作品名】
暮らしにカフェライフを

設 計 株式会社 安藤嘉助商店
施 工 a.n.d.design
竣 工 日 2018年1月

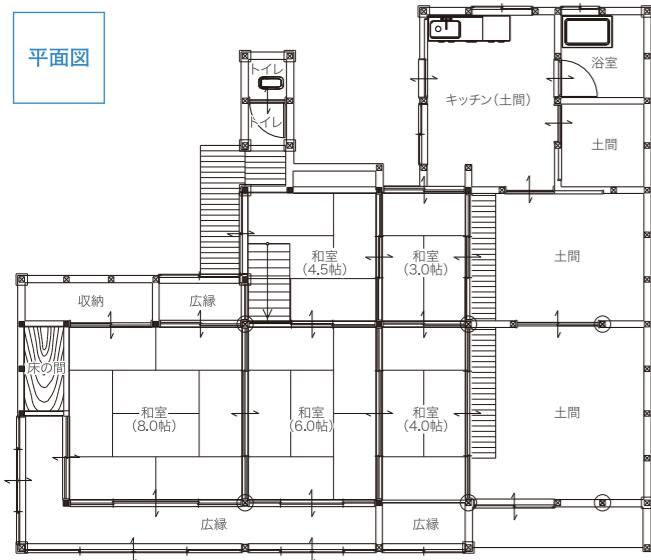
◎建物概要

建 設 地 岡山県倉敷市 延床面積 147.00m²
敷 地 面 積 不明 構造・規 模 木造2階建

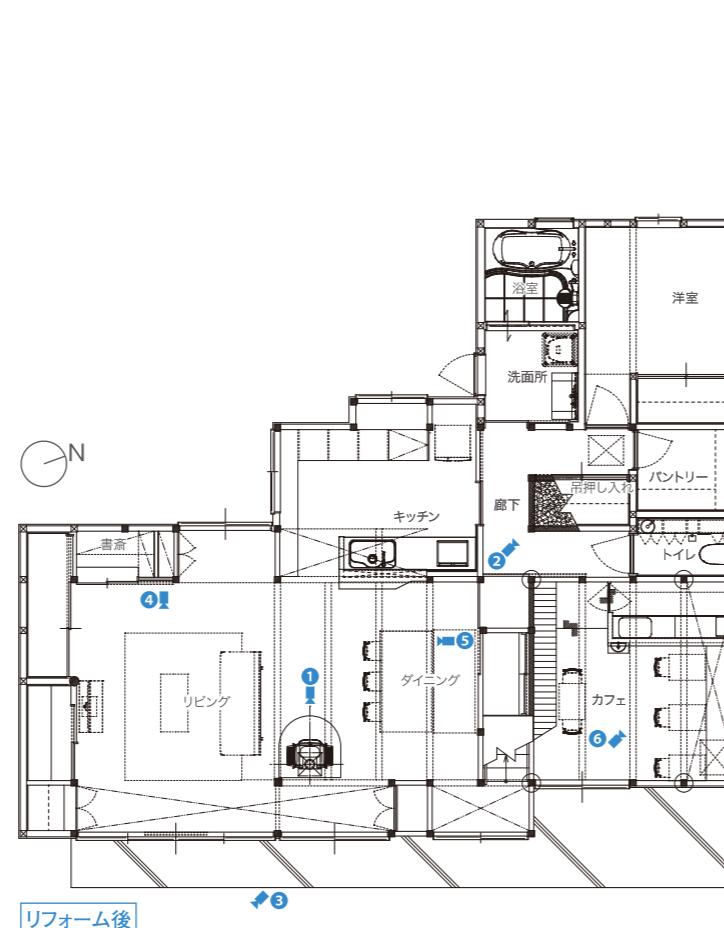
◎設備面の特記

厨 房 機 器	IHクッキングヒーター
給 湯 機 器	エコキュート
冷暖房機器	エアコン 薪ストーブ

平面図



リフォーム前



リフォーム後

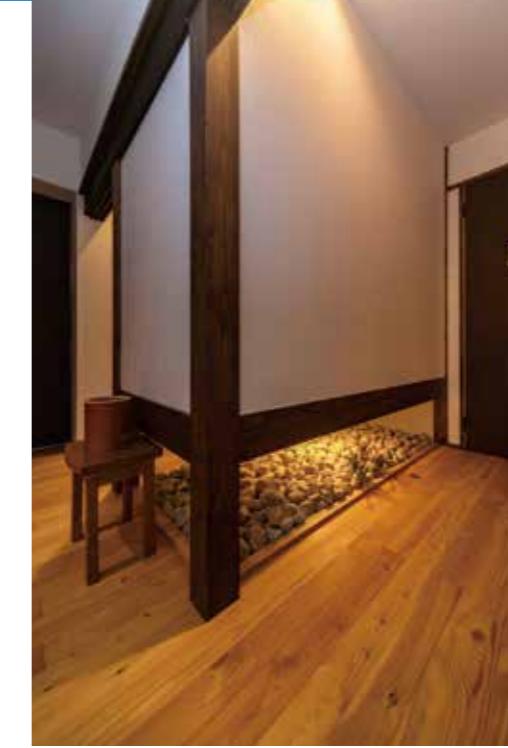


設計コンセプト

お母様との同居を機に都会での生活から、生まれ育った町への移住を考えられた族主様。古民家ならではの良さである既存の梁や柱を生かしつつ、明るく開放的に暮らせる家にしたいとのご要望をいただきました。歴史が刻まれた欄間や太い梁の古き良き古民家に北欧のモダンデザインをプラスして、落ち着く空間をコンセプトとし新しい暮らしを提案。せっかく古民家に住むならカフェを開きたいとのご要望で、人が集まる落ち着く空間を設計しました。一番日当たりのいい和室を半吹き抜けにし、家族が集まるリビングダイニングへ。キッチンを家の中心に配置しリビングダイニングやカフェスペース、水廻りにも近くして使い勝手を考慮しました。

審査委員講評

築100年以上の古民家が、現代の生活に見事に蘇っています。しかも、西洋モダンを付加した空間は機能的に計画されており、白い外壁にエントツのある外観も含めて、非常に美しいと感じます。玄関であった土間に新しくカフェを開き、人々が集まる場所を設けられたこと、成功していると思います。これからも長く愉しめる見事なリフォームです。



①薪ストーブをLDKの中心に配置し、部屋全体が温かくなるように設計しました。煙突は2階の寝室を抜けるため、寝室も温かくします。遠赤外線の効果で、真冬でもエアコンをつけない日があるそうです。

②家族が過ごすプライベートスペースとカフェスペースを、トイレへの廊下で区切りながらも共存させました。

③元々あった戸戸を再利用し、手押しポンプを設置することで遊び心のあるお庭になりました。手動なので電気代もかからず、いざという時に役立ちます。



④ ⑤ 和室を半吹き抜けにした家族が集まるリビングダイニング。

⑥ 念願だったカフェをオープンされ、たくさんの方が心地いい空間での時間を過ごしています。

（写真撮影：株式会社 安藤嘉助商店）

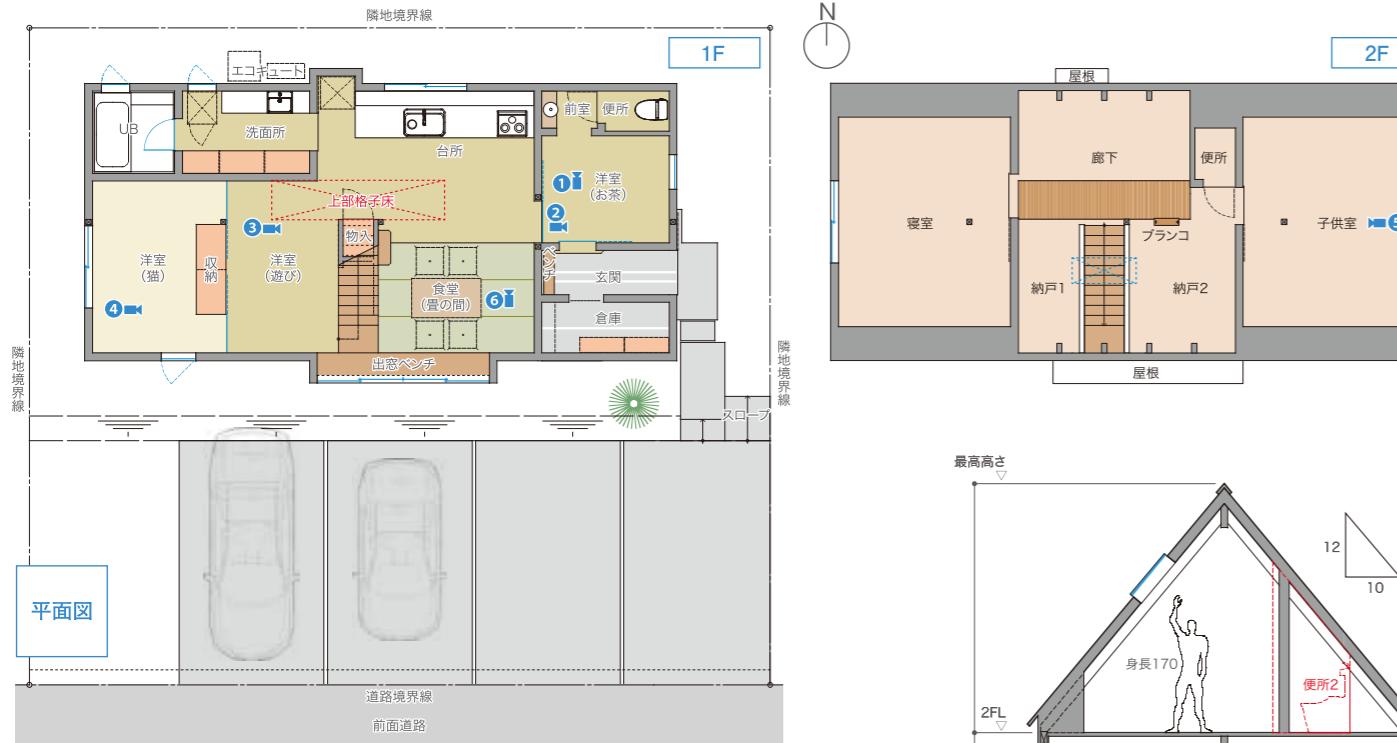
設 計 原浩二建築設計事務所
施 工 株式会社トガノ建設
竣 工 日 2018年12月27日

◎建物概要

建 設 地 島根県出雲市 延床面積 120.78m²
敷 地 面 積 195.00m² 構造・規模 木造2階建

◎設備面の特記

厨 房 機 器	IHクッキングヒーター
給 湯 機 器	エコキュート
冷暖房機器	エアコン



設計コンセプト

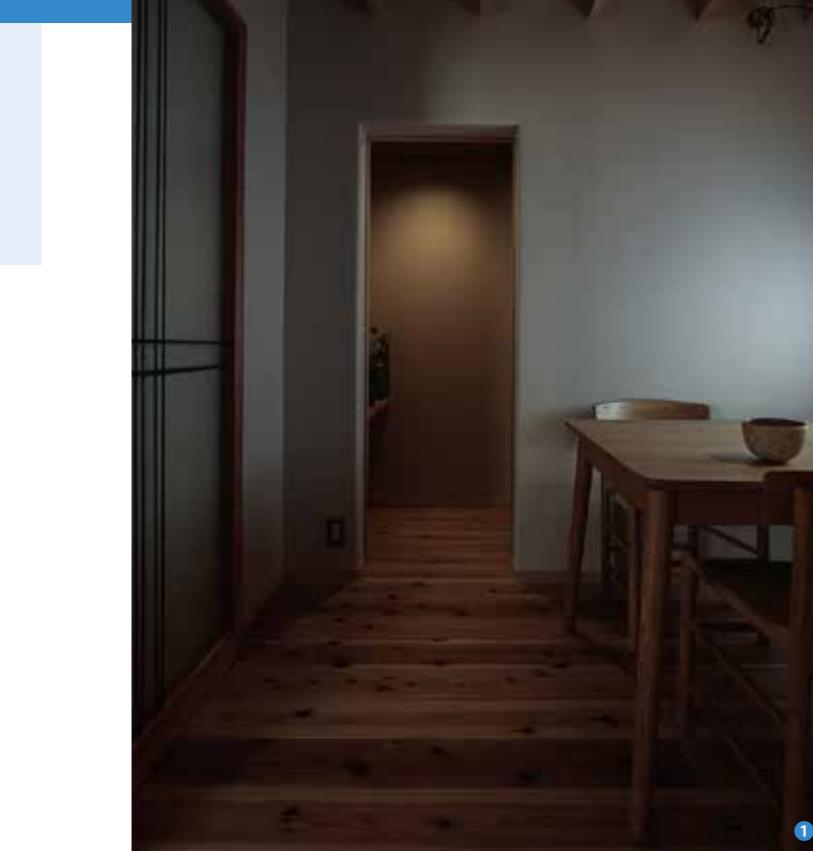
さほど大きない床面積の中、お客様のための茶の間と、ペットの猫たちの部屋を設けた計画である。外観に反して、玄関と茶の間は明るさを落とし、シックで落ち着いた空間としている。まるで隠れ家のカフェのような雰囲気が、お客様やご夫婦の日常生活に特別な時間を刻んしてくれる。

ご夫婦が吹抜けを希望されず、また1階と2階の諸室面積の要望がおよそ2:1だったため、2階を三角形断面とし、実質の床面積と施工費をおよそ半分とするボリュームとした。

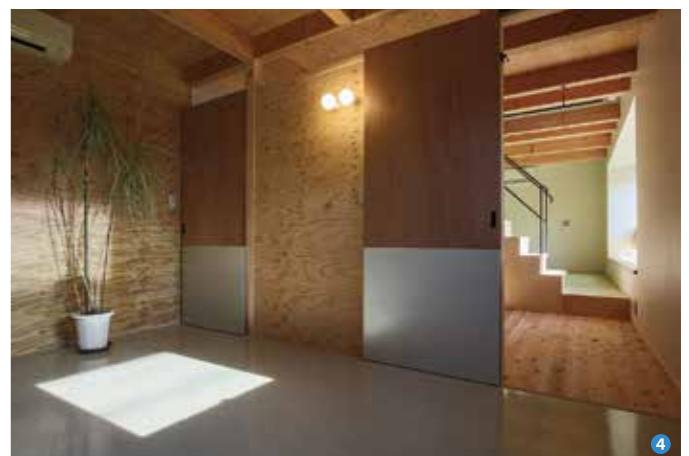
その結果、急勾配の切妻屋根のかわいらしい個性的な形態となった。道路側ファサードはプライバシーを重視するご夫婦の要望で、ペット部屋の小さな窓以外の唯一大きな窓は、出窓と

審査委員講評

する事で真夏の日差しが奥まで届かないようにした。熱環境的には、2階の床を一部木格子とし、夏場の家全体の熱気を三角天井上部に集め、換気扇で排熱している。冬は格子にカーペットを敷き、階段周りにカーテンをまわすことで1階の温まった空気が2階に回らないように考えている。



①②明るさを落としたシックな室内。
③階段下の空間は、ペットのトイレスペース。
④猫部屋。壁は猫たちが引っ掻いてもいいように構造用合板とし(張替えも可能)扉は下部にGL鋼板をはっている。



⑤2階廊下の床は一部木格子にしている。

⑥普段の生活の中心がこのコンパクトなキッチンと畳の間である。

佳作

大角 雄三

大角雄三設計室

【作品名】
玉野の家設 計
施 工
竣 工 日

大角雄三設計室

有限会社 住まいの伏見

2019年4月1日

◎建物概要

建設地 岡山県玉野市 延床面積 100.98m²
敷地面積 259.76m² 構造・規模 木造平屋建

before

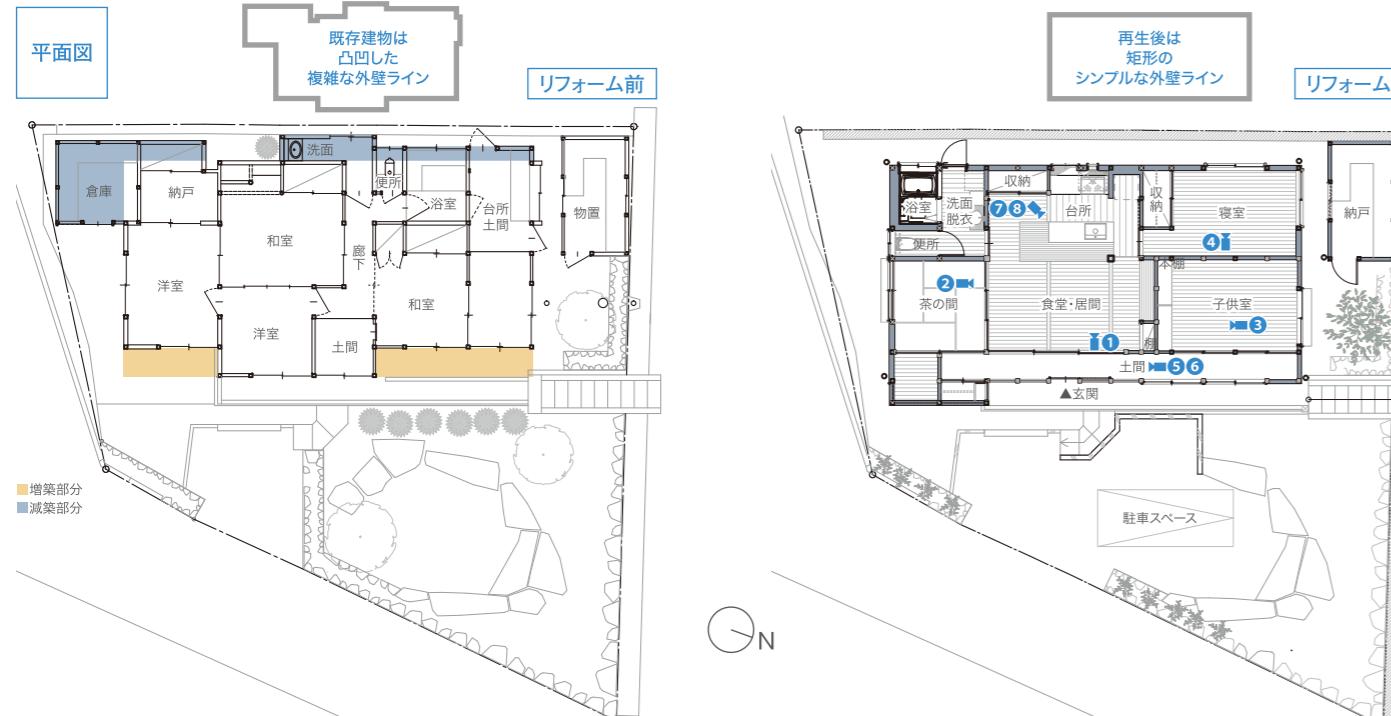


after

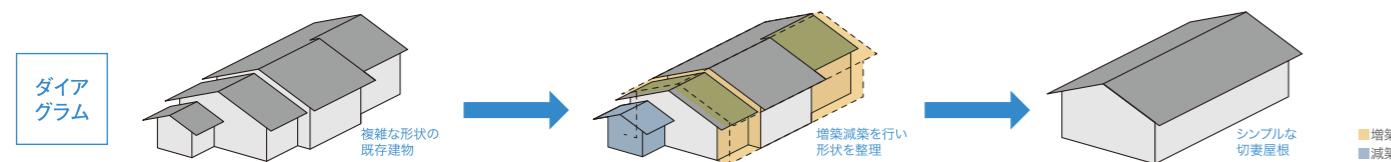
◎設備面の特記

厨房機器 ガスコンロ
給湯機器 ガス給湯器
冷暖房機器 エアコン

平面図



ダイアグラム



設計コンセプト

敷地は、岡山県玉野市の昭和30年代から60年代にかけて造成した団地の一角。団地全体はかなり老朽化しており、空き家や空き地が点在しています。一方で、地域としては瀬戸内芸術祭の玄関口である宇野港があり、港町を形成してきた民家やアートが混在した活気ある町です。

建主は夫婦と子どもの仲の良い3人家族。子どもの成長を思い一戸建てに住むことを決断し、色々と探した結果購入された建物は、昭和30年代半ばの高度経済成長期に建てられた建売の供給住宅でした。高度経済成長期には地方にも住宅難の波が押し寄せ、官民合同で無数の住宅が供給されました。その多くが現在老朽化し、直す価値もないと放置されたり解体を待つ状況であり、今回の建物もその中の一つでした。しかしこじんまりした平屋を気にいった建主が、この建物の再生を強く望まれました。

既存建物はパラックのように増改築を繰り返し、多数の棟を持つ複雑な形状でした。今回私たちは一つの棟の切妻屋根と矩形のプランになるように整理しようと考え、それに伴い一度軸組みまで解体し、建物の中心に位置する居間部分に大断面材でフレームを組み、建物全体を補強する構造としました。

広くはない家なので、暮らしのシーンに呼応して空間が転用する計画を心掛けました。例えば東側前面を土間の縁側とし、建具を開け閉めすることにより色々な使い方ができるようにしています。

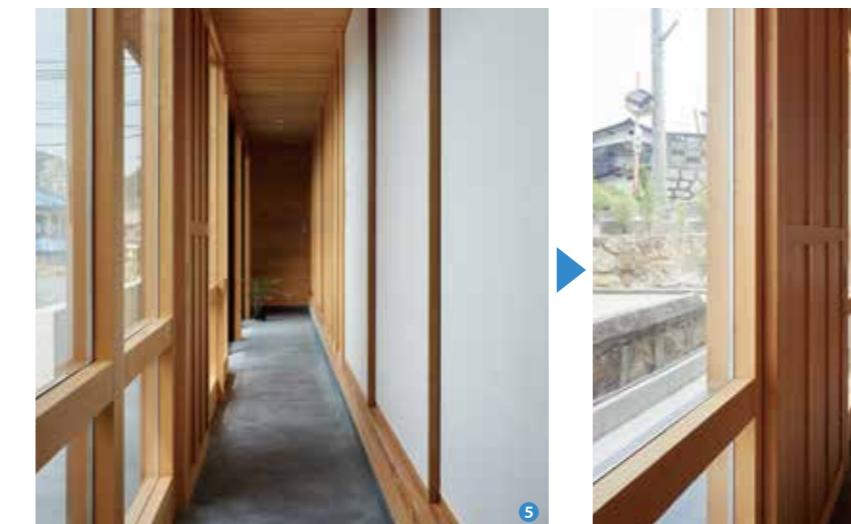
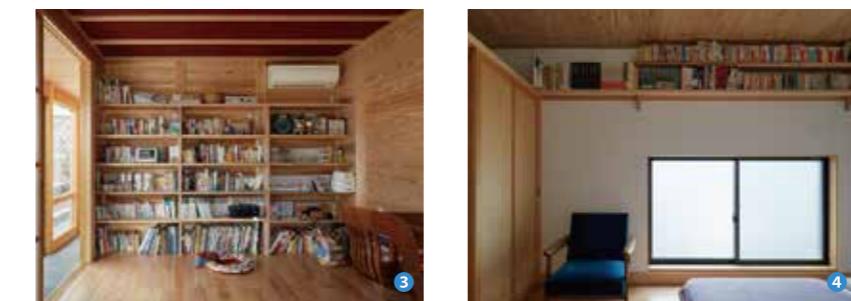
家を直す価値とは、文化的な価値や資産的な価値と同義で勘定されます。建築家としてはただ建物をつぶさに読み解き形式を踏襲しながら丁寧な仕事をすることで、「60年前からありそうで60年後にも新しい建物」を目指しました。

審査委員講評

築60年、高度経済成長期に建てられた住宅を再生したいという施主の強い要望に見事に応えています。築100年、150年の古民家の再生のような「歴史的建物を未来に遺す」といった使命感とはまた別の「建売住宅を再生する」ことに建築家が挑んだ作品です。現代の基準を満たす構造補強やシンプルな間取りへの変更など、地味ながら高度な知識を必要とする作業の積み重ねが次の60年の暮らしを愉しくします。

⑦この家ではカーテンを設けていない。視線や光を和らげるものは障子やボリカーボネイトなどの建具を用いている。外に開くことが難しい中、外と仕切っていても気持ちいいのはやはり障子だと再認識する。

⑧初めから新築を望んでいなかった建主一家。古民家や大きい家など資産価値のあるものではなく、小規模のものを探すうちにこの物件にたどり着いた。昔からあったようなさりげない佇まいとどこか新しい感じられる建物を喜んでいただいている。



①②③④オープン棚は余刺収納ではなく、メインの収納として機能。きれいに住むことではなく楽しく住むことを重視している。

⑤⑥建物の採光面を東側にとり、ガラス張りとした。道路に面していることもあり、障子で居室や子ども室と土間を区切り、プライバシーを確保すると同時に可動的なダブルスキンとして機能。障子を開け放つと縁側のように開かれた空間となる。

審査委員特別賞 鳥取県

木村 智彦
合同会社グラムデザイン
一級建築士事務所
【作品名】
上道の家2

設 計 合同会社グラムデザイン一級建築士事務所
施 工 株式会社 辻工務店
竣 工 日 2019年3月12日

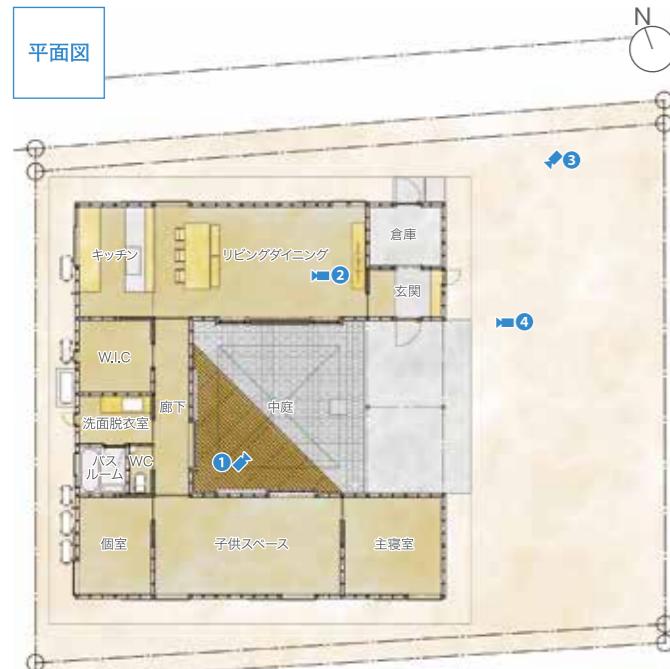
◎建物概要

建設地 鳥取県境港市 延床面積 128.15m²
敷地面積 405.20m² 構造・規模 木造平屋建

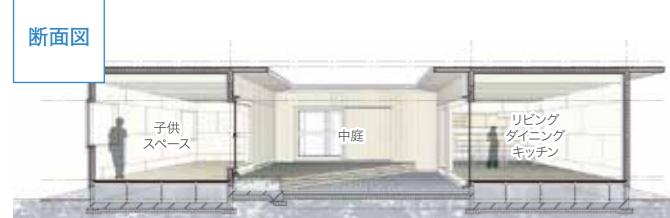
◎設備面の特記

厨房機器	IHクッキングヒーター
給湯機器	エコキュート
冷暖房機器	エアコン

平面図

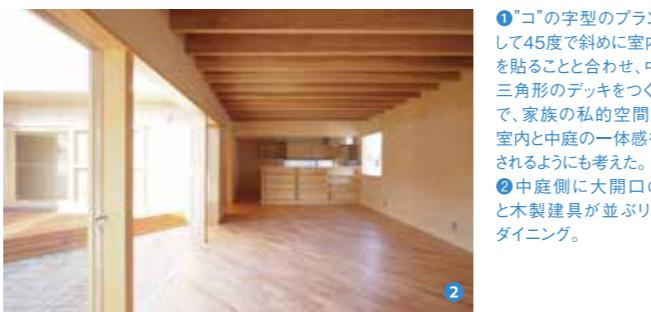


断面図



設計コンセプト

現在は若い夫婦と子どもが1人、将来は3人の子どもを希望する家族が住む。敷地は鳥取県境港市、ご主人が生まれ育った場所からほど近く、東に幅員5mの前面道路、南北も幅員2mの狭い道路。その狭い道路を挟み2階建てと3階建ての住宅にも囲まれていた。友人や親族と集まることの出来るプライベートな庭が欲しいとの要望もあり、平屋にするにも十分な広さがあったため、中庭を囲むカタチで「コ」の字型に諸室を配置し、「口」の字型の屋根を持つ住宅を設計した。中庭は前面道路から地続きにつながり、柱、軒下空間、そこに落ちる影、中庭に敷設したセメントレンガなどが曖昧に領域を示し、家族の私的な空間を緩やかに確保されるよう計画している。



③④外部の杉板は、働き幅を113mm(455mm/4)で製材し、墨出しによる丁寧な割付を行うことで外壁と軒天の目地も全面揃えて貼り付けている。1mほど伸ばした軒は、雨から外壁を守り、内部と中庭へ差し込む日差しも調整している。

審査委員講評

内装はシナ合板貼りを基調とするが、リビングダイニング、子どもスペースの大きな床面積をもつ場所は天井を構造現しとし、半割の梁間を杉板貼りとしている。その他の諸室は天井高を2,100mmに絞り、室の面積により適度な気積となるよう配慮した。木製建具やアルミサッシの枠についても、内装のシナ合板の目地、外壁の杉板目地により細かな寸法を決定するなど、内部と外部、詳細と全体のフィードバックを繰り返しながら設計を行っている。「口」の字型の屋根を大きく掛けることや、木質で柔らかな表情を持つ素材を用いることとともに、細かな寸法監理を徹底することで、大らかな空間でありながら、凛とした表情を併せ持つ住宅を目指して建築した住宅である。

口の字型の平屋建で。幾何学プランで外観も端正、水平・垂直の構成が美しい建築です。内外とも、木が多用され、開口部の納まりや板張りも細かく計算されてつくられているせいか、暖かい雰囲気だけれど緊張感のある空間がつくれられています。軒でトリミングされた正方形の空の変化が美しいだろうなと想像されます。

審査委員特別賞 島根県

田村 淳
田村淳建築設計事務所
【作品名】
M-邸

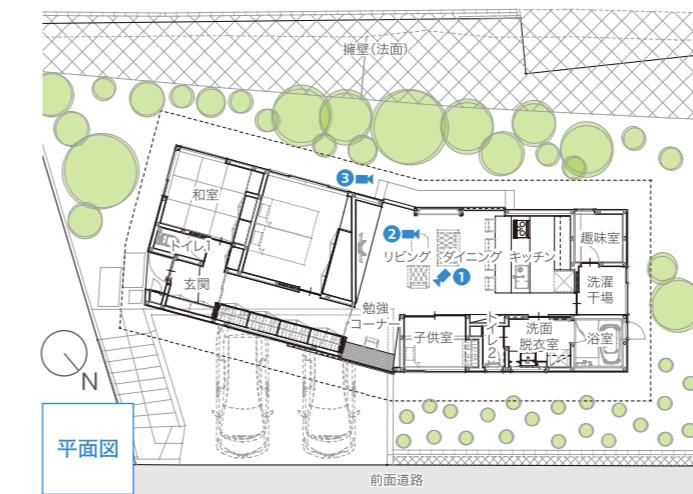
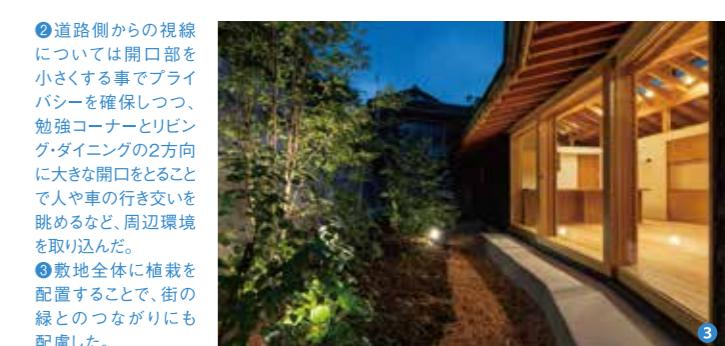
設 計 田村淳建築設計事務所
施 工 有限会社 まごころ
竣 工 日 2019年9月22日

◎建物概要

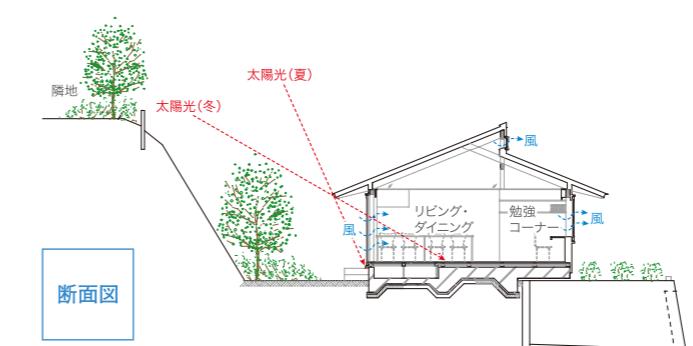
建設地 島根県松江市 延床面積 88.89m²
敷地面積 332.72m² 構造・規模 木造平屋建

◎設備面の特記

厨房機器	IHクッキングヒーター
給湯機器	エコキュート
冷暖房機器	エアコン



断面図



設計コンセプト

敷地は島根県松江市の市街地から少し外れた場所。前面道路は主要道路への抜け道となっており車の通行が絶えない。その前面道路より2mほど上がったところが計画地であり、さらに敷地の南西側には崖がある。「外からは閉鎖的かつ中からは開放的な建物にして欲しい」、「窓から空の見える建物にして欲しい」、「リビング・ダイニング・キッチンは1つの大きな空間にして欲しい」と言う施主の要望を考慮する一方で、周囲から閉ざされた関係ではなく周囲と関わる範囲を拓げていけるよう建物を計画した。また、周囲には木を植えている家が多いため、それに合わせて敷地全体に植栽を配置して周辺地域の緑と一緒に楽しめた。

南西側の崖の上端のラインの水平距離から崖の高さの2倍に相当する距離(崖地条例)を敷地図面に落とし込んでいくと、くの字のラインが現れた。そのラインを避けながら建物を検討した結果、周辺環境が変化しても採光・通風・プライバシーが確保出来る中庭のような場所が出来上がった。その中庭のような場所を主軸として周囲との閉鎖と開放のバランスを調整していった。エリアごとに間仕切り壁と天井との間のランマ部分(三角状)をガラスでゆるやかにつなげることでエアコン効率への配慮だけでなく、おおらかで抜けのある空間が出来上がった。

審査委員講評

プライバシーを大切にしながら、明るく風通しの良い住宅が見事に完成しています。敷地の環境条件を整理し、それに素直に対峙したことによって、開放的であり、個性的な住まいとなっています。少し折れ曲げた平面に屋根の頂点から差し込む光束が美しい。時と共に庭の樹木が育ち、地域や近隣の緑と一緒に一体となる日が楽しみです。

審査委員特別賞 岡山県

高見 修一
株式会社 FOMES design
【作品名】
大屋根の家

設 計 株式会社 FOMES design
施 工 ホーム株式会社
竣 工 日 2018年10月21日

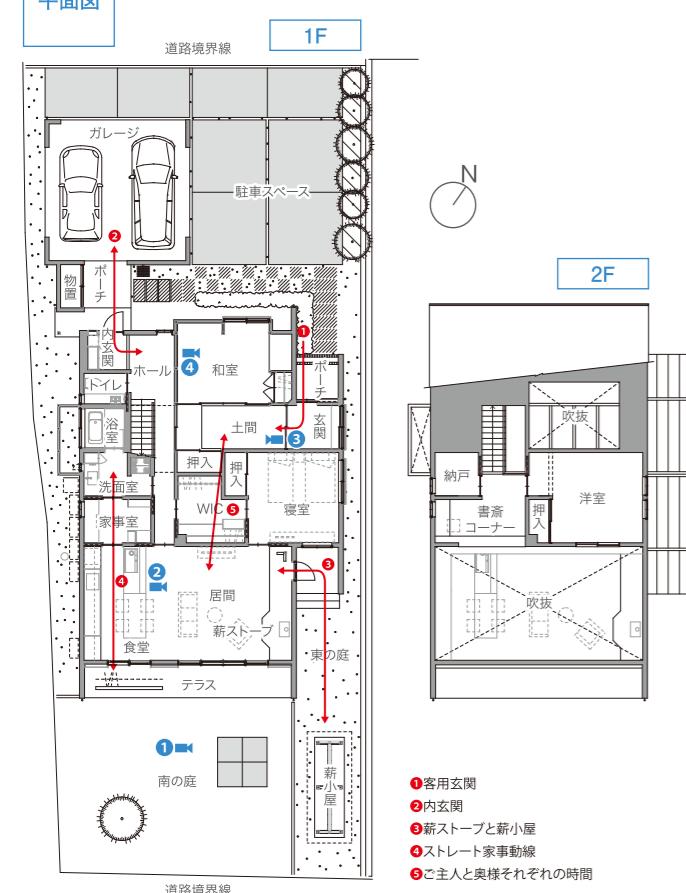
◎建物概要

建設地 岡山県浅口市 延床面積 192.23m²
敷地面積 431.90m² 構造・規模 木造2階建

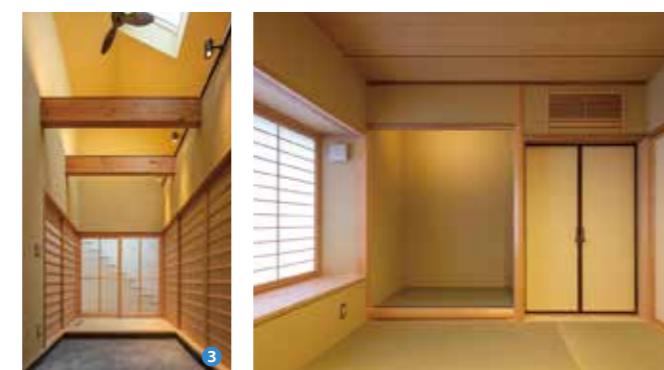
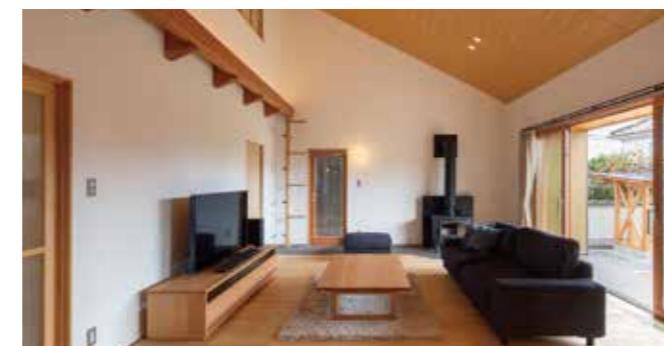
◎設備面の特記

厨房機器	IHクッキングヒーター
給湯機器	エコキュート
冷暖房機器	エアコン
その他設備	次世代ソーラーシステム「そよ風」 薪ストーブ

平面図



① 南の庭は、ご家族でバーベキューなどができる開放的な空間。東の庭には、大容量の薪小屋と薪割りなどの作業もできるスペースを確保。
② 薪ストーブのある居間。



③④近くには造り酒屋もある風情豊かな土地柄、ご主人は時折お気に入りの土間に友人を招いては宴会を楽しめ、そんな時でも、奥様は一歩距離を置いたリビングルームで気兼ねなくつろぐ。土間と和室は一体で使うこともでき、そのまま眠れるよう押し入れやクローゼットも完備。

設計コンセプト

数十年前に建てた一軒家に住んでいた施主夫婦は、その家から目と鼻の先にあるこの場所に、夢をたっぷり詰め込んだ、二人にとって終の棲家となるこの家を建てた。ご主人は夢だった薪ストーブを手に入れ、薪割に勤しみ、奥様は欲しかった家事室で好きな事を行い、愛猫はキャットタワーを登り家中を駆け回る。そんな嬉しい暮らしが始めるきっかけの一つとなったのは、独立されたお子さんが家族を伴って元の家に帰ってくるという出来事だった。と言うことは、少し先の未来を想像すると、再び世代交代の時期がやってくるはず…。二人暮らしには少々広いこの家の空間構成は、次の世代、もしくは住まい手が変わっても、その人達への受け皿である家と

なるよう願いを込めた、施主夫婦の思いの形である。一番の要望でもあった、次世代ソーラーシステム「そよ風」を搭載したこの家は、夏は屋内の熱気を外に排出し、冬は屋根で温められた外気を屋内へ取り込んでいるため、年中を通して、ほどほどの涼しさ、温かさが得られる。それにより、冷暖房機器の使用頻度の減少に繋がることは勿論のこと、このシステムは、太陽の熱をそのまま熱として使うため、発電とは異なり自然にも人も優しい。ご夫婦で会社経営をされており、まだまだ日中は一緒に仕事を精を出されているようだが、帰宅後、バリアフリーな温熱環境の中、疲れを癒してくれるこの家は「それそれが好きな時間を好きな場所でストレスなく愉しく過ごしたい」そんな二人の設計当時の要望を、かなえ続けてくれるに違いない。

審査委員講評

かなり大きな家ですが、切妻の大屋根で大きさを感じさせないつくりとなっています。来客にも対応した贅沢なプランですが、内外観とも慎ましい品の良さが感じられます。来客動線、家事動線、猫動線、薪スペース等一つ一つを確実に提案されており、ご主人、奥様、来訪者、皆に喜ばれる家になっていると思います。

審査委員特別賞 広島県

中村 克彦
中村克彦建築事務所
【作品名】
小河原の家

設 計 中村克彦建築事務所
施 工 フタミ建設株式会社
竣 工 日 2019年6月13日

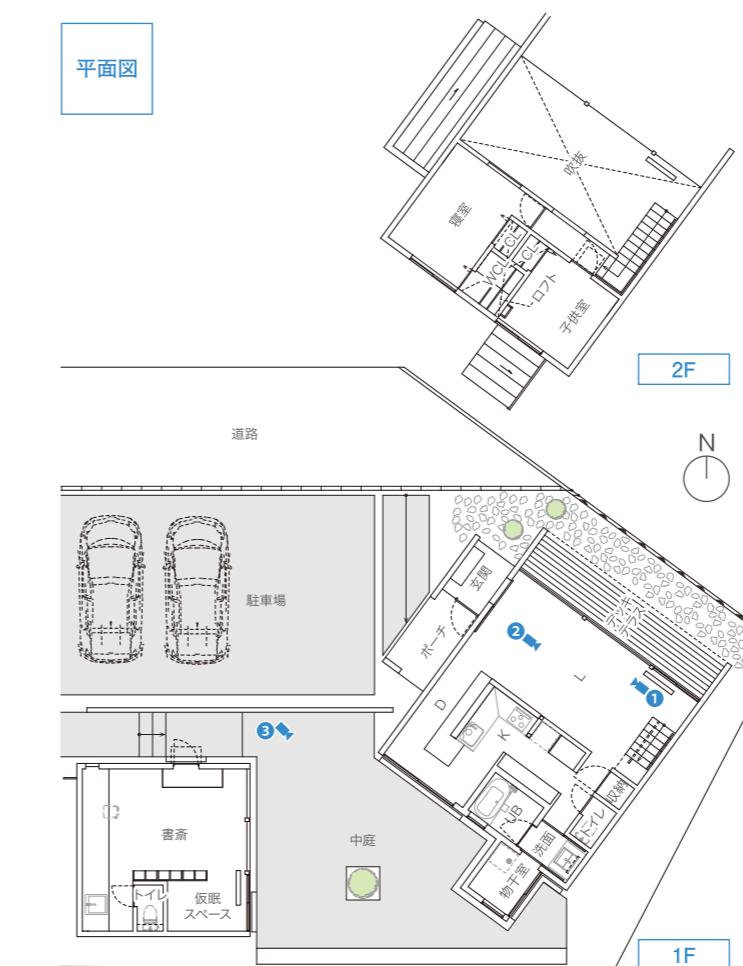
◎建物概要

建設地 広島県広島市 延床面積 104.38m²
敷地面積 267.99m² 構造・規模 木造2階建(別棟木造平屋建)

◎設備面の特記

厨房機器	IHクッキングヒーター
給湯機器	エコキュート
冷暖房機器	エアコン

平面図



①②住居棟。2階建てだが基本的にワンルームとした。片流れの大屋根にして連続感を持たせている。また、眺望をよくするために1か所の出入り口を除いて、はめ殺しのガラスにした。



③中庭は異形な形状であり、高さの違う建物と境に囲まれているため、ちょっとした街並みのなかにいるような気分が味わえる。

設計コンセプト

敷地は広島市の郊外、斜面に沿った高低差のある団地である。日除け、視線対策になる。高さの違う2棟の間に挟まれた中庭は、午後になると書斎棟の日陰が広がりちょっとしたコモンスペースのような雰囲気になっている。また住居棟の屋根は片流れの大屋根で樋を設けていないので雨の日は屋根をつたい落ちる雨粒で雨を感じ、雪の日は雪を感じる。雨の日の居間からの眺めは裏から見る滝のようであり、裏見の滝と呼んでいます。書斎から中庭、デッキテラスまで中のようで外のようでもあり、四季を通じて多様なシーンを感じさせてくれるのではないかと思う。

審査委員講評

敷地形状に対する住空間のボリュームの置き方が素晴らしいと思います。主屋と書斎の位置関係、その二つに挟まれた中庭と駐車場、それらの配置とボリューム感が自然的であり、説得力があります。内外部空間が一体であり、実際に伸びやかでシンプルな美しい住宅です。見晴らしを大切に扱うための開口部のディテールが全体を引き締めています。

審査委員特別賞 山口県

長野 英彦

株式会社 長野総合建築事務所

【作品名】

横山の家

設 計 株式会社 長野総合建築事務所
施 工 株式会社 太昭組
竣 工 日 2019年5月31日



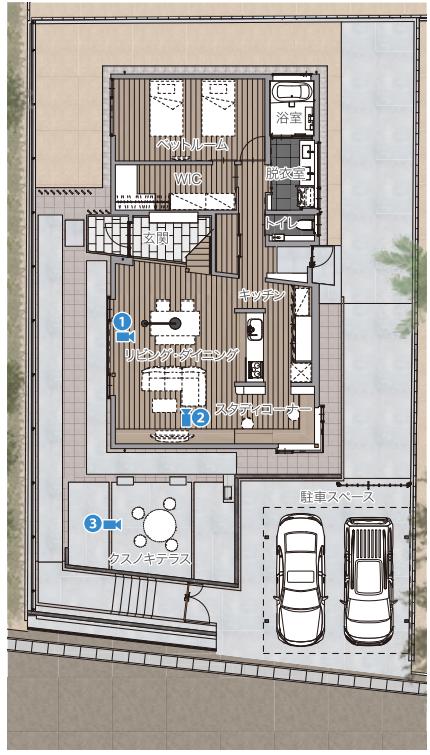
◎建物概要

建設地 山口県岩国市 延床面積 150.79m²
敷地面積 337.10m² 構造・規模 木造2階建

◎設備面の特記

厨 房 機 器	IHクッキングヒーター	食器洗い機
給 湯 機 器	エコキュート	
冷暖房機器	エアコン	
その他設備	スマートHEMS	

平面図



1F



2F



①リビング・ダイニング、スタディコーナー。

②家の中心に配した、南北を貫くバルコニー。立体的な空気の流れをつくり、季節ごとに最適な温熱環境をめざしました。



③友人を招いてのバーベキューや夏の花火大会を見るなどアクティビティに対応する庭(クスノキテラス)。

設計コンセプト

敷地は山口県岩国市の城下町の風情を残す地区にある。周囲は豊かな自然林を抱く山、敷地北東に巨大なクスノキ、敷地南側は様々な植生の緑に囲まれている。これらの豊かな文脈と家をつなげることで、生き生きとした住環境をつくりたいと思った。

周囲の特徴ある緑に対して遠景、近景を意識して注意深くフォーカスしながら、様々なシーンが生まれるように計画した。アプローチは、家と南側の緑の間を抜けて遠くに自然林を抱く山を引き込むように、庭(クスノキテラス)は、敷地北東の巨大なクスノキを取り込んでいる。敷地内に緑の計画を一切しないことで、周囲の緑との関係を際立たせている。

窓は周りの豊かな景観を切り取るように配し、家の様々な場所

で固有の自然との関係をつくり、日々の生活と共に鳴る空間を目指した。また、家のどこにいても家族の様子を感じられるようにという要望に対して、一枚の大きな寄棟屋根ですべての居室を包み込むように計画し、家族のつながりが深まるところを期待した。

また、城下町の景観とのつながりを屋根に求め、寄棟屋根の一部がカットされた未完のかたちにより、周囲の家並みとの接続を図っている。

周囲の街並みや緑は、歴史と記憶をつないで現在の豊かな景観をつくりだしている。この計画では、敷地がもつ固有の環境にフォーカスすることで、歴史・記憶と接続し、未来の景観と豊かにつながる家となることを目指した。

審査委員講評

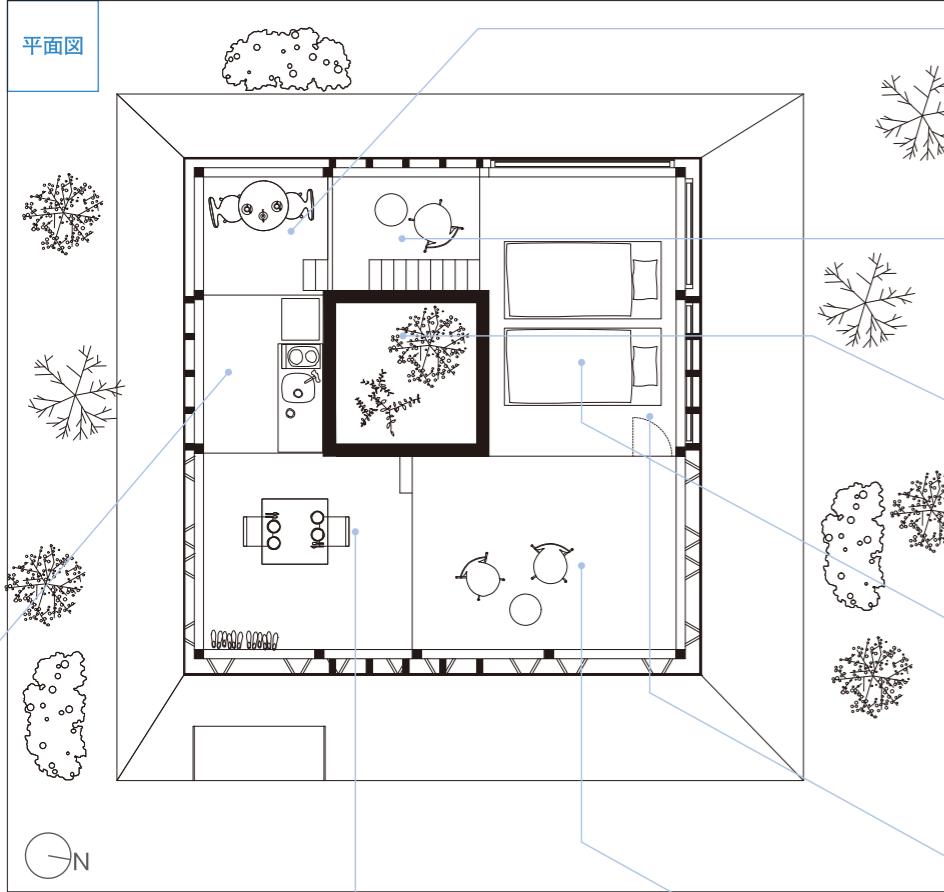
どこか懐かしさを感じさせる蔵のような佇まいの家。敷地の外にあるクスノキの巨木が作り出す風景に溶け込み、遠い昔からそこにはあったような錯覚を覚えました。城下町の風情を残すこの地区は豊かな緑や街並みと調和する建物であることが求められます。クスノキテラスと名付けられた庭は地域の人々との井戸端会議の場として、地域コミュニティを育む大切な空間となっていくことでしょう。

最優秀賞

西川 優

近畿大学

【作品名】風と光と～光庭との関係性～

**喫茶室 GL+390**

台所や書斎の中間の場所。日当たりも通風も良いので食事や休憩など様々な用途に使える。

書斎 GL+790

二面の壁に囲まれている唯一の場所。仕事や読書などに集中できる場所である。

光庭 GL+2700

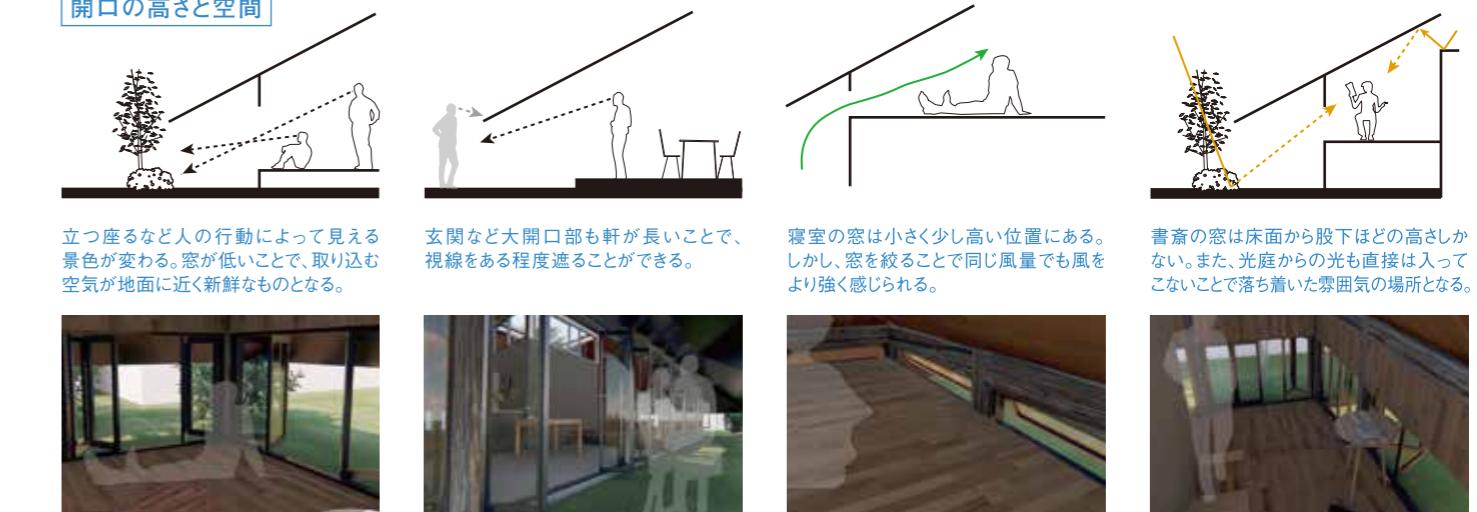
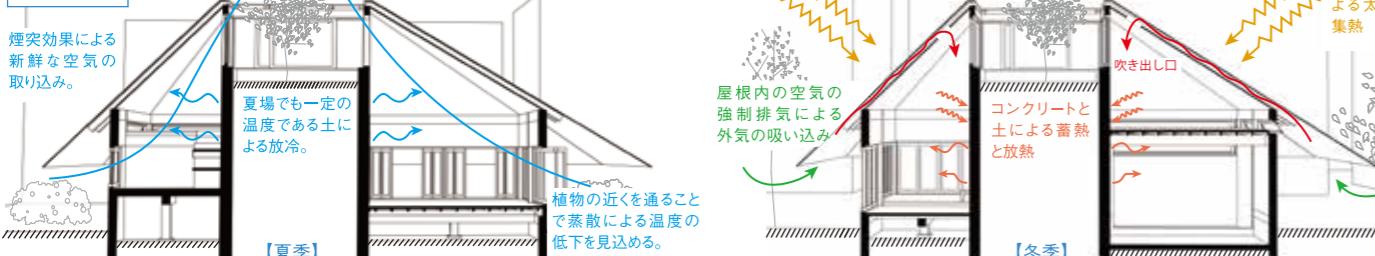
この住宅の特徴ともいえる場所。住宅の中に光と風を与える。視覚的にも植栽があることで安らぎを与える。

寝室 GL+1900

天井高は低いが光庭に最も近いことで開放感のある場所。冬場は屋根から暖かい空気が吹く。

脱衣所・風呂 GL-400

半地下空間であるため年間を通して環境が変わりにくい。

**開口の高さと空間****環境効果****設計コンセプト**

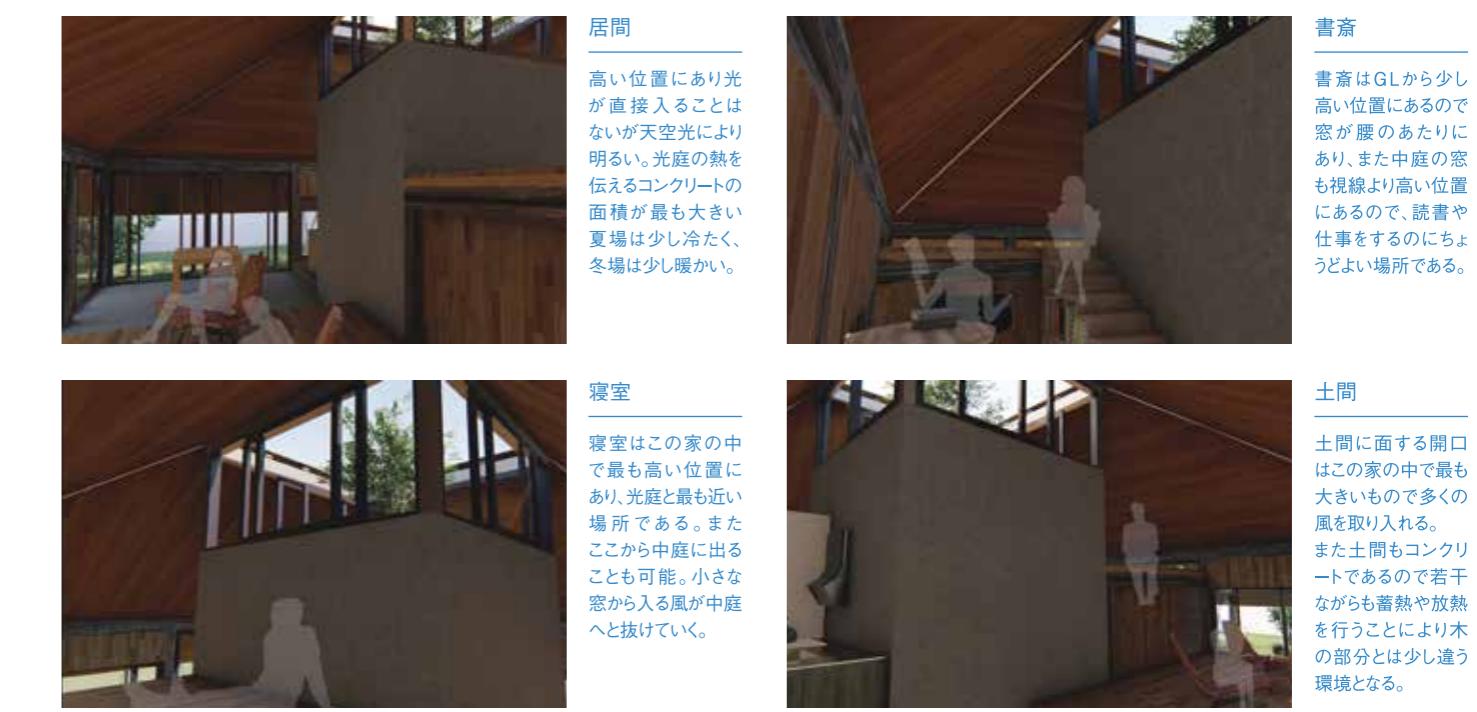
現在の自然環境は人が生活するにはあまりに暑く、冬は変わらず寒い。この環境内で生活するには、エアコンやストーブなど環境に負荷のかかるものを使うしかない。しかし、それでは未来に生きる子どもたちや年老いた自分の生活を苦しめることとなってしまう。そこで、本計画では、未来的な環境に対して負荷のかかるエアコンやストーブなどをできる限り使うことなく、暑さや寒さを乗り切ることを目的とした実験住宅を設計した。

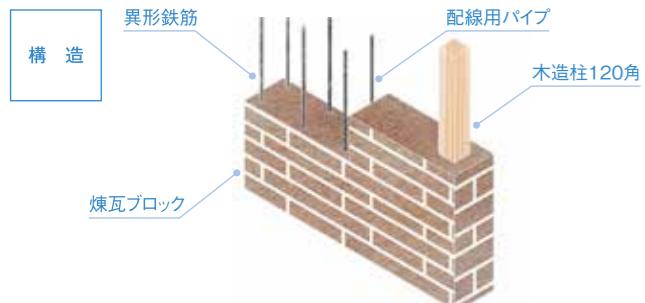
この住宅における坪庭は、地上レベルからさらに土を盛り上げることで、住宅の中心にコンクリートと土による蓄熱部となって機能する。この蓄熱部は夏の外気温より温度が低く、冷たさを感じることができる。またエアコンの冷気を蓄冷し放冷することで、エアコンの負荷を低減する。冬場は温められた空気を吹き付けることで蓄熱し、そこからの放熱により、住宅全体を柔らかく温める。

また住宅の屋根は三層構造になっており、吸熱素材・空気層・

審査委員講評

住宅平面の中央に大きな植木鉢を造り、その周辺に住空間を展開させるという非常に明快なプラン構成、見事です。この壁式コンクリート造の植木鉢コアを頂点に屋根を架け、軒先を低くした形状は力学的にも明快であり、美しいと思います。植木鉢の地熱の利用、屋根の太陽熱の処理方法、そして光と風の作用など環境負荷低減のこともよく考えられており、ぜひ実現させてみたい提案です。

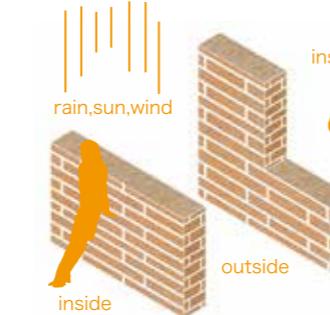
各場所と光庭の関係性



木と鉄筋で補強した煉瓦を用いてこの建築を土地に根付かせる。



椅子や机になる煉瓦の塊。

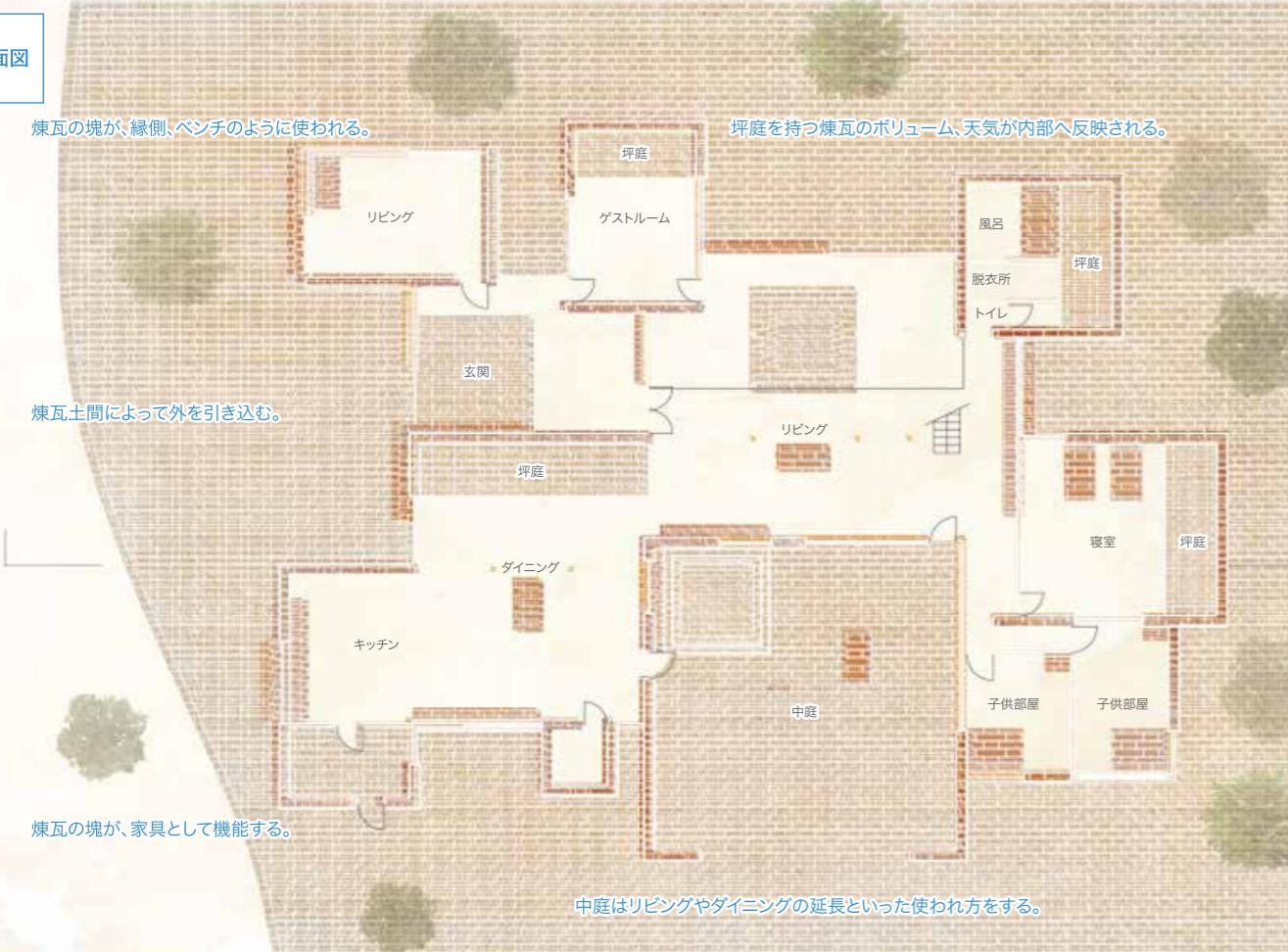


煉瓦の塊が、内外を曖昧にする。



煉瓦の塊が、縁側、ベンチのように使われる。

坪庭を持つ煉瓦のボリューム、天気が内部へ反映される。



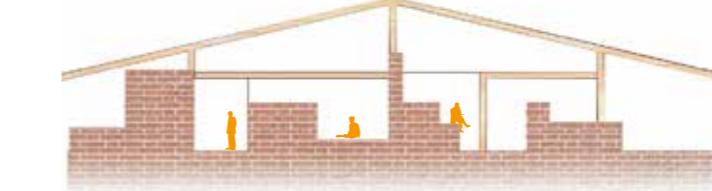
煉瓦間によって外を引き込む。

煉瓦の塊が、家具として機能する。

中庭はリビングやダイニングの延長といった使われ方をする。



① 土地から生えたような煉瓦の構築物をつくる。



③ 経年良化する煉瓦とともに生活していき愉しい未来をつくっていく。



④ 何年も先の未来、土地に根差した煉瓦は、パブリックスペースとして街の遺産となる。



⑤ 緩やかに繋がる空間。家族が成長するとともに、建築も経年変化していく。

⑥ 木造と煉瓦造がかみ合う。内部と外部が曖昧になる。

⑦ パブリックスペースとなった場所。公園のような使われ方をする。

設計コンセプト	審査委員講評
<p>敷地は、岡山県備前市三石。この街は煉瓦の街として発展を遂げてきましたが、高度経済成長の終焉や海外製品の台頭に伴って煉瓦製造の生産量は減少し、現在の三石は寂しい街並みとなっています。街にはいたるところにかつての繁栄を偲ばせる煉瓦の遺産が残っています。ここに、過去を尊敬し、未来へ繋がるための住宅を設計します。公園のような大らかなスケールを持つ敷地に、その土地から生えたような、前からそこに存在していた地形のような煉瓦の塊を大小さまざまに点在させます。その地形的な塊を足がかりに、木造を插入し、木造と煉瓦造の組み合わせによってこの</p>	<p>建築に住宅の機能を持たせます。こうして出来るのは、ずっとそこにあった地形に住まうかのような住宅です。煉瓦は時間をかけて風化し、経年良化しながら土地に根ざし、歴史を宿します。そこに住まう家族は、煉瓦の風合いが変化していく様子とともに生活していきます。何年先もの未来、住む人が居なくなり住宅の機能を失ったこの建築は、住宅の記憶を宿し、土地に馴染んだ煉瓦のパブリックスペースとしてこれから先もこの土地で歴史を宿していきます。</p>

設計コンセプト	審査委員講評
<p>敷地は、岡山県備前市三石。この街は煉瓦の街として発展を遂げてきましたが、高度経済成長の終焉や海外製品の台頭に伴って煉瓦製造の生産量は減少し、現在の三石は寂しい街並みとなっています。街にはいたるところにかつての繁栄を偲ばせる煉瓦の遺産が残っています。ここに、過去を尊敬し、未来へ繋がるための住宅を設計します。公園のような大らかなスケールを持つ敷地に、その土地から生えたような、前からそこに存在していた地形のような煉瓦の塊を大小さまざまに点在させます。その地形的な塊を足がかりに、木造を插入し、木造と煉瓦造の組み合わせによってこの</p>	<p>住宅のために用意されたものではなく、あらかじめあるものを利用しながら住まいを作ることは自分の計画力だけではない。他の力が働き、新鮮なものができる可能性があり、楽しいものです。あらかじめつくられた廃墟を出発点とする発想はとても新鮮です。最初にどういう廃墟にするかに迷ってしまいますが…。</p>



⑤ 緩やかに繋がる空間。家族が成長するとともに、建築も経年変化していく。

⑥ 木造と煉瓦造がかみ合う。内部と外部が曖昧になる。

⑦ パブリックスペースとなった場所。公園のような使われ方をする。

⑦

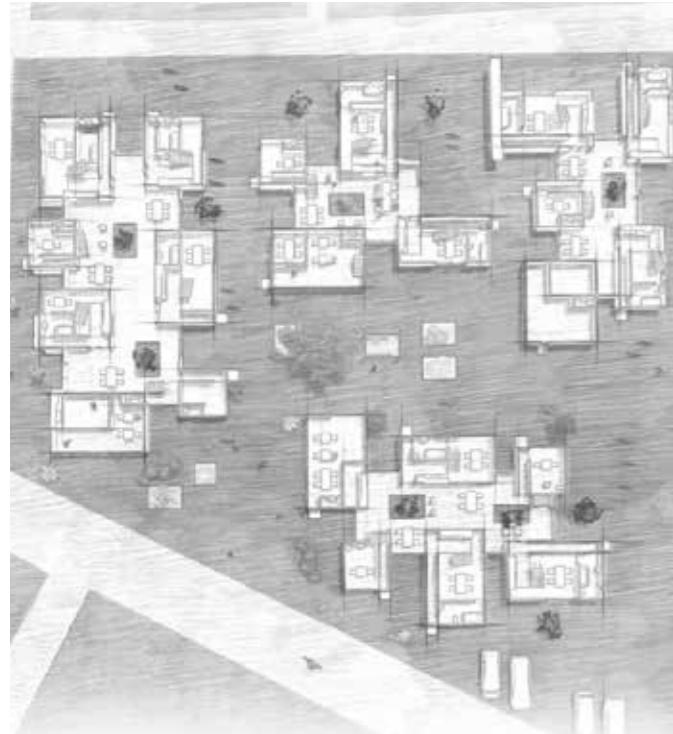
学生部門 佳作

古澤 太晟
島根大学
【作品名】
**INNOVATIONAL
VILLAGE**

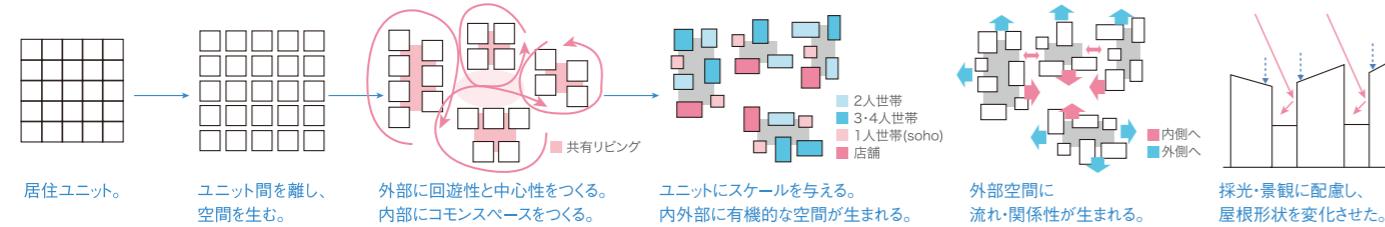


外観

平面図



ダイアグラム + ゾーニング



設計コンセプト

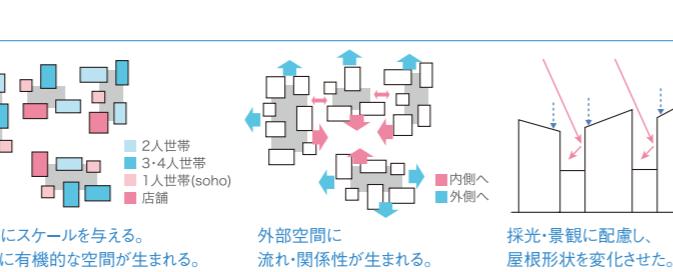
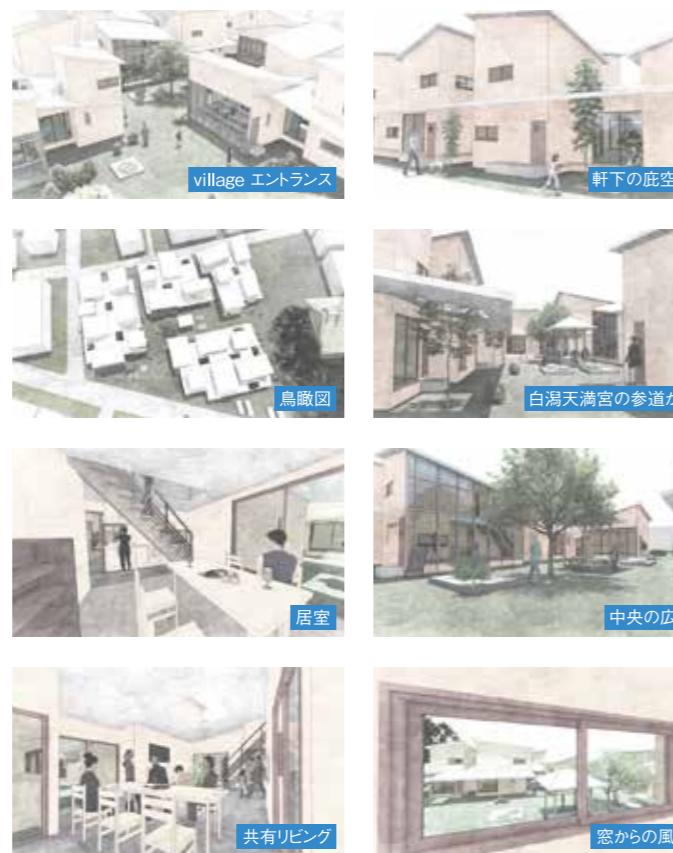
現代の住宅において、血縁以外のコミュニティに帰属している例は稀有である。ただ「住む」という行為のためだけに建築が存在し、コミュニティが希薄化しているのだ。本設計では多世代、多様な家族がコミュニティレベルで交じり合って住むことのできるモデルを提案した。さらに、住宅以外の機能も兼ね備えることにより、サステナブルな内容となっている。住民同士、地域の人同士など、複雑な関係性が構築された暁には、このまちにイノベーションが起こるだろう。

敷地は松江市天神町。隣接する白潟天満宮は昔より人々に慣れ親しまれている神社である。敷地を一体として考え、参道の先を「むら」の中心広場にすることで、まちのコミュニティベースのコアができる。

関係性としては、多世代、多様な家族が同じ屋根の下で暮らす。ほかの家族の気配を感じながらの生活は様々なつながりを生み、設計者の想像を超えた住民主体のアクティビティが行われる。職住近接を設定し、まちの機能を「むら」に集約する。コンパクトに設計された循環型の集合住宅はまちの人たちにとって魅力的な場所となり、さびれつつあるまちの活性化につながる。多世代の様々な人が集い、絡み合うこの住居では、古めかしいものと同時に新しい「何か」で常にあふれている。それらは人々の好奇心をくすぐり、楽しみに満ちた生活をおくことができる。無限の可能性を秘めた子ども、これから新しいチャレンジを試みる大人にとってイノベーションを起こしやすい環境である。

審査委員講評

松江市天神町にある神社、白潟天満宮の参道を中心とした街づくりの提案です。リアルな空間を想定してのアイデアは、実際そこに暮らす人々にとっては「突っ込み処」満載のプランになります。住民曰く「そんなのありえないよ」といった。学生といえども、絵空事でないテーマを選んだことに拍手を送ります。将来、建築家として生きていこうとするならば、生身の現実と常に向き合うことになるのですから。



学生部門 審査委員特別賞

佐藤 優希

東京工業大学大学院

【作品名】
晴れの日も雨の日もウチ・ソトテラスで
居場所をつくるシェアハウス



周辺にまじむボリューム



家具がなくても床が椅子やテーブルとして使える

①バックグラウンド



かつては核家族が住み現在は高齢化が進む郊外住宅地

②サイト



エベネザハワードの提唱した田園都市を参考に造成された住宅地

③プロポーザル

住宅地に建てる
学生向けのシェアハウス

「高低差のあるテラスのある暮らし」

① 家具を備え付けなくても
暮らせる

② 床が変化することで
様々な居場所をつくる

学生の短い居住期間でも家具を
購入せずに済み環境にやさしい

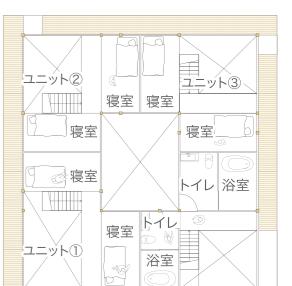
共同生活でもゆっくりとルームメイトと
地域と関係を築ける

平面図

1F

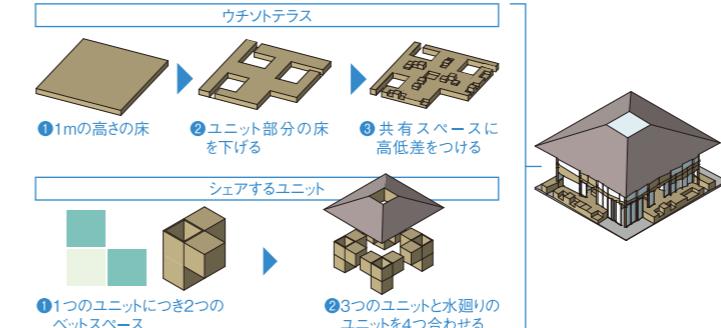


2F



N

④ダイアグラム



⑤セクション



設計コンセプト

「時代や世代の変化をふまえた暮らしの提案」とは何かを考えたときに①建築が多くモノを代替し自由なライフスタイルを提供するとともに環境を考えた暮らし②生活の中で人と関わりを創り出す暮らしの2つが実現できる住まいだと考えました。敷地は高度成長期に開発され、現在は高齢化が進む郊外住宅地。ここは都心からは離れた一方で、低密で敷地にゆとりがあり周辺環境との豊かな接点が存在しています。そこで同じ家族構成の家庭が多く暮らす住宅地の中に、現人口の多くのを占める単身者のためのシェアハウスを提案します。従来の戸建住宅のように敷地内に庭・駐車場といった特定の用途をつくらず、できるだけ周辺との接点をもたらすような高低差のあるテラスを設けました。1mの高さが基準のテラスは外から見ると

審査委員講評

現在は高齢化が進んでいるごく一般的な住宅団地内の角地を敷地に、あえて若い学生を住ませ、コミュニティの場をつくる問題解決型の計画。セミバブリック空間の提案が素晴らしいと思います。内外にまたがるテラスを主題に示されたCGでは、その美しい空間と楽しさが十分に伝わってきます。ぜひ実現させてみたい作品です。

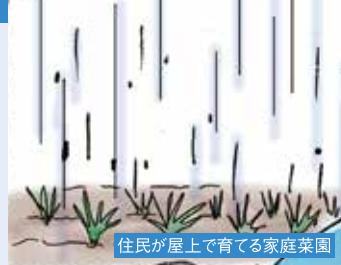
学生部門 審査委員特別賞

安間 理子・小澤 光理

北海道大学大学院

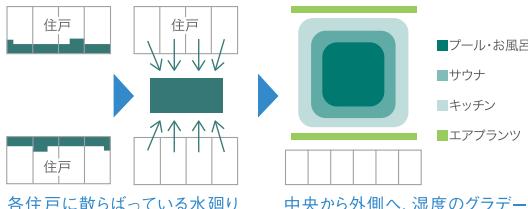
【作品名】

はだかでつながる
水みずしい暮らし



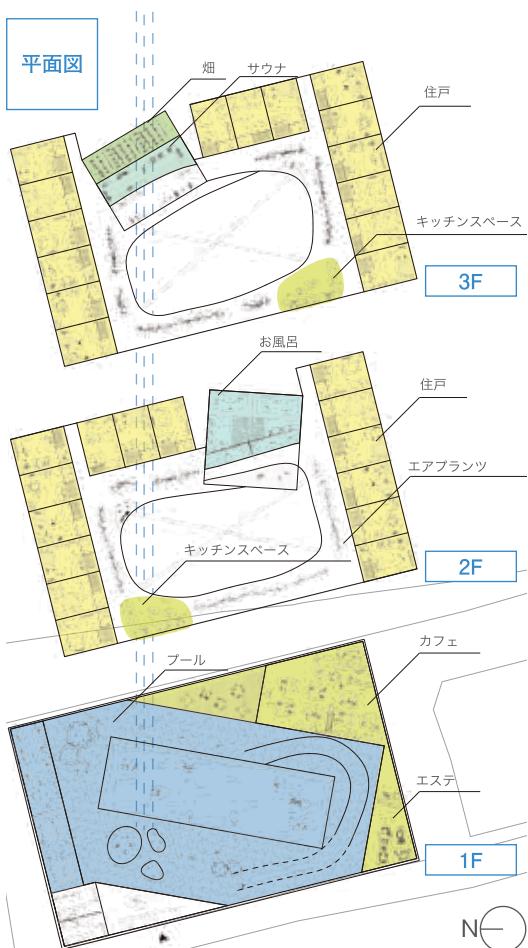
キッチン&湿度を調整するエアプランツ

ダイアグラム



人間の60%を形成する「水」。はだかの付き合いを形成する共用空間では湿度を保つことが重要です。
水回りの空間を中央に集めることではだかを許容する湿度のグラデーションを、建物内に作ります。

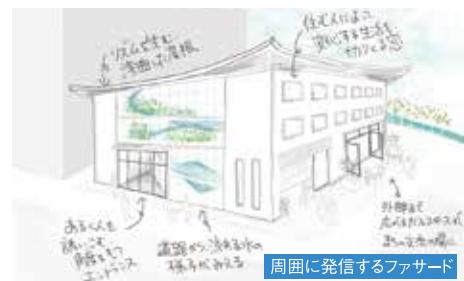
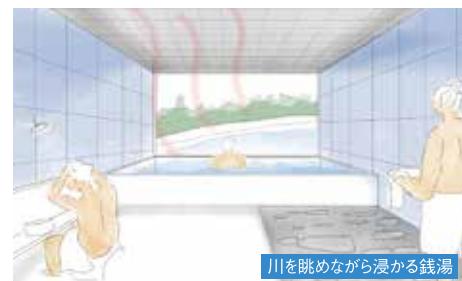
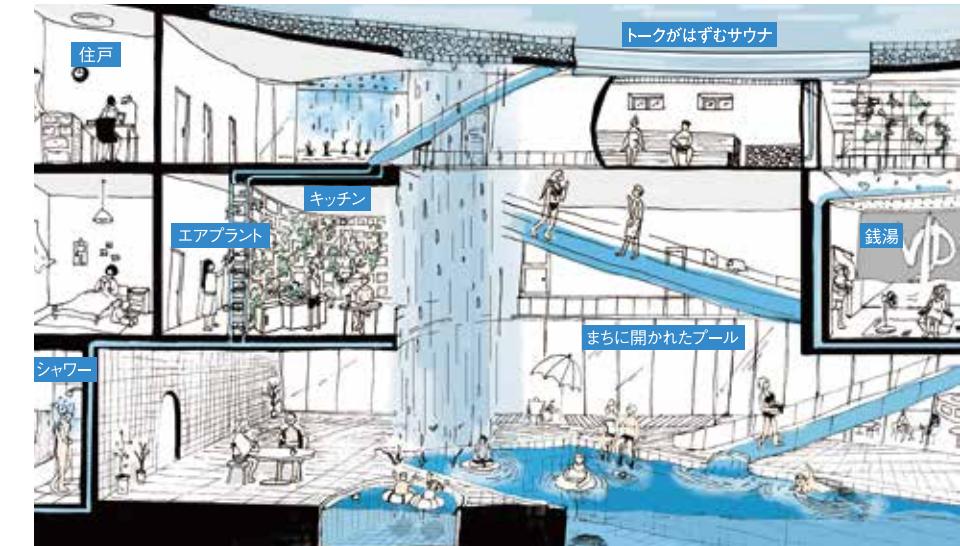
平面図



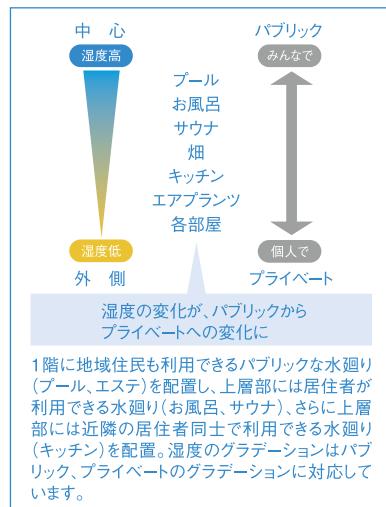
設計コンセプト

近年、日本で暮らす外国人の数は増加しています。集合住宅やシェアハウスにおいても、隣の部屋に外国人が住んでいることがあたりまえのようになってきました。しかし、言語や文化の異なる人々が互いに打ち解け合うのには時間がかかります。そこで、言葉のいらない「はだかの付き合い」に着目しました。海外でもフィンランドのサウナやヌーディストビーチなど、はだかの付き合いは存在しています。多国籍の「はだかの付き合い」によって、縮めた共用空間における体の距離が、お互いの心の距離を縮めていくようなシェアハウスを考えました。

空間操作として行ったのは、各住戸に散らばっている水廻りの空間を共用空間として建物中央に集め、プールを中心とした



湿度のグラデーション



審査委員講評

共同住宅の住戸の中でも最もプライバシーの高さを求める浴室を全部まとめて最もパブリックな場にするという大胆で新鮮な提案です。楽しいイラストとそれを論理付けようとする、挑戦によって可能性が見えできます。個に属していると信じこんでいる部分をどこまでがせるか、今一度考えてみると大切さを感じました。